

西 公民館

遊びゲーシヨン松前っ子



▲▼一心にゲームに打ち込む子どもたち



11月15日(土)、松前公園体育館で小学生を対象としたゲーム大会が実施されました。会場には、愛護部の役員さんたちの手作りのゲームコーナーが設置されました。地域別に整列した子どもたちは、ゲームごとに説明を受けた後、ゲームに挑戦し、記録表に得点を記入します。すべてのゲームが終われば、記録用紙を提出します。

年齢の子どもや地域の方々とのふれあい、工夫して遊ぶ楽しさ、むつかしさなどの素晴らしい体験ができました。本当に有意義な半日になりました。これも、本部役員の方々、地区役員さん方の献身的なご協力のおかげと感謝しています。入賞者は次のとおりでした。

低学年の部

- 1位 日尾 勝多
- 2位 吾野 文人
- 3位 島 大樹
- 4位 岩井 貴稔

中学年の部

- 5位 鷲山 達紀
- 6位 永野 瞳
- 7位 山本 由弥

高学年の部

- 1位 村上 拓矢
- 2位 大森 健吾
- 3位 大西 智也
- 4位 山下 亮
- 5位 大西 陸
- 6位 永見 元揮
- 7位 豊田 晶久



▲見事、高得点で入賞!

ふるさとをたずねて

もりた らいしきゆう
森田 雷死久さん

文化財保護審議会委員

郷田 光生

森田雷死久は、明治5年に伊予郡西高柳(現松前町西高柳)に、父彌市郎の二男として生まれた。本名は愛五郎、14歳で谷上山宝珠寺の僧となる。長じて京都佛教大学林に学び、真言宗智山派の権田雷斧について修業し、僧徒に任ぜられた。明治25年、業成り帰山の後、伊予郡南山崎村上唐川の真成寺の住職となった。僧名は貫了。

同30年唐川小学校代用教員となり、32年には正教員となったが、翌年退職した。明治28年ころから俳句を始め、同32年俳句会をつくり、唐川地区の人々を指導した。

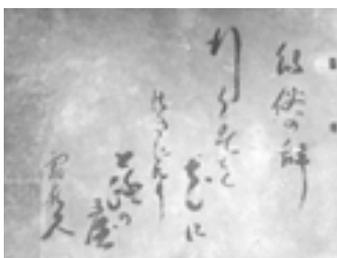
同34年俳人野本蛭牙公の妹と結婚、温泉郡朝美村味酒(現松山市清水町)に転出した。明治36年、ついに還俗を決意して真成寺を去るとき白壁に俳句を墨書して去った。この句碑が伊予市上唐川の浜出稲荷神社の境内に建立されている。「行く春を花にさきにけり露の臺」である。実物の壁は切り取って伊予市中央公民館に保存している。

その後再び僧となり、温泉郡潮見村(現松山市平田町)の宝珠院常福寺に入り法灯を継いだ。

大正2年、果樹の同業者で、伊予果物同業組合を組織した。その時、雷死久は専務理事として活躍している。

新果樹園は年一年と級数的に増加し、その産額も大いに伸び、伊予果物の名が全国に有名になる機運をつくった。伊予梨の栽培普及に努めるかたわら、一層句作にも没頭した。

また、果樹園芸の指導にあたり、農業経営の改善を図ろうと努力した。しかし、病気で大正3年、僅か43歳で世を去った。



▲帰俗の辞